

父母連ニュース

表面：第21回草加子育てのつどい報告
裏面：2013年度市長懇談会報告

草加市保育園父母会連合会 機関紙

2013年度 第3号/2014年3月15日発行

発行責任者：芹澤一洋 945-5178

<https://www.soka-fuboren.org>



盛会となりました！「第21回草加子育てのつどい」報告 ～2月2日（日）高砂コミセン・あずま保育園～

実行委員長 中島幸代（草加市保育園父母会連合会 副会長）

今回で21回目を迎える「草加子育てのつどい」は、父母連・市職労保育部会に加え、家庭保育室・NPO法人さくらんぼ・NPO法人こども広場草加親子劇場にも賛同していただき、共催という形で開かせていただきました。来賓として衆議院議員の黄川田仁志様にご来場いただきました。大人が約100名・子ども約80名と、多くの方に足を運んでいただきました。保育の先生も、数多く協力していただきました。

講演会には蔵持康子さん（元・里保育所所長）をお招きし、「子育て、疲れていませんか？」をテーマにお話をしていただきました。仕事をしながらの育児でイライラすることも多く、大人の都合で急かしてしまいがちな日々を送っている母親にとって、ハッとさせられるようなお話を聞くことができました。

子どもの具体的な事例を交えながらわかりやすくお話していただき、「子供目線に立って」「子供に寄り添って」の子育ての大切さに触れることができ、みなさんも自分の育児を振り返りながら聞き入っていました。以下に来場者の感想をいくつか紹介します。

- ・「楽しい子育て＝目の前にいる子をどうとらえるか」ということ。「生まれてきてよかった。今日1日が楽しいが楽しい」と我が子が思っ過ぎておせるようにしたいです。
- ・のんびり子育てしたいな～といい勉強になりました。
- ・涙が止まりませんでした。「気がついたらやりなおせばよい」とても貴重はなお話をありがとうございました。
- ・子供との向き合い方を、改めて考えさせられるような講演でした。



あずま保育園では、劇団風の子による「いやだいやだのペンペロペー」が公演されました。小さなお子さんも楽しめる、楽しい言葉や音があふれる作品でした。

パネル展示は、家庭保育室・NPO さくらんぼ・NPO おやこ劇場・冒険広場に加え、今回も民間の認可保育園3園が参加して下さいました。それぞれの活動を写真等も盛り込んだパネルで紹介しました。



ご協力して下さいました方々、参加して下さいました方々、どうもありがとうございました！



2/28(金) 田中和明草加市長との市長懇談会報告

草加市保育園父母会連合会会長 芹澤一洋 もとひろ

2月28日（金）19:00より、田中市長をはじめとする保育行政関係部署と父母連との市長懇談会（2013年度草加市の明日の保育を考える市長懇談会）が高砂コミュニティセンターにて行われま
（裏面に続く）



した。

この懇談会は、各保育園からの要望を吸い上げ、全保護者の声として市へ要望として届ける年に一度の貴重な会です。(父母連の存在意義でもあります。)

当日、年度末に差し掛かったお忙しい中、平日にもかかわらず各園から 23 名の保護者に参加していただきました。みなさん本当にありがとうございました。

以前よりお伝えしていました通り、父母連からは次の 7 点について市へ要望を提出していました。

①待機時児童対策について、②保育料引き下げについて、③子ども・子育て支援新制度について、④病児保育の拡充、育成保育の充実について、⑤保育士・看護師の確保のお願い(待遇改善)、⑥保育園でのこども教育連携推進について、⑦子育て支援を応援できる体制づくりを(主に金銭面)。

全ての要望について市から回答を得ていますが掲載しきれないため、父母連ホームページに掲載していますので参照してください。当日は 60 分という短い時間でしたので、そのうちアンケート上位に挙がった 3 項目(②、④、⑤)と新制度(③)の 4 点について懇談いたしました。

前向きな情報としては、正規職員の募集に関し年齢制限などの緩和をしてまで募集をかけていること、園舎の耐震工事に向け取り組み始めたこと、民間認可保育園は社会福祉法人のみとして保育の質を守ろうとして頂いていること、新制度が始まったとしても今の草加基準を守り抜く約束をしていただいたこと。これらを市長が直接答えていただきました。

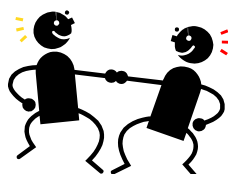
ただ、保育料引き下げ、保育士看護師の確保、施設型の病児保育施設拡充という点では、市の財政状況の厳しさからして前向きな回答は得られませんでした。

また、参加者の方からも、保育士の人数が今でも足りず、今後も足りなくなっていくのではないかと。今後どうしていくのかということについて問うことができました。3 年後には全国で 7 万 4 千人の保育士が不足するというデータもあるそうです。

正規職員としての採用内定を出しても辞退される方も十数名いるようで、市としても保育士の確保は今後の喫緊の課題と考えているそうです。

これらの課題をすぐに解決できることは難しくても、毎年訴えかけていくことが重要と私たちは考えています。(例えば主食の無料化は 20 年以上毎年要望し続けた結果、ようやく実現しました。)

来年度以降も皆様からアンケートを募り、結果に沿った要望書を市へ提出する予定です。ご協力お願いいたします。



やつか保育園 土曜日の延長保育拡充の要望について

やつか保育園では、土曜日の延長保育が行われていないことに対する不満を市へ訴えかけるため、保護者にアンケートを取り数字の根拠とともに市へ要望しました。

市からの回答としては次の通りでした。

・やつかのような比較的小規模の園では園児が少なく、それに伴い正規職員数も少ない。

・職員が居ないため土曜日保育のシフトが組めない。(1 日 8 時間、1 週間 40 時間の労働を超えてしまう。)

・「土曜日や延長保育中であっても現場での責任者と成り得る正規職員を最低 1 名は配置すべきだ」という組合からの要望もある。

・保育課だけではなく職員課、労働組合との兼ね合いが必要。ただ、このような形で市へ直接訴え出たことで、やつかの窮状を市にわかっていただけたと思います。

今後は、保育課だけではなく、保育士の先生方や労働組合にも働きかけていくことも必要と感じました。今後もやつか保育園と共に粘り強く働きかけていきたいと思っています。